
ペットとわたし

しこう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ペットとわたし

【Nコード】

N2829T

【作者名】

しじう

【あらすじ】

願った。心の底から、願った。そして叶う、それは――「……
…うつそだあ…」「叶えてくれたんだよ、カミサマが」「ペットと飼
い主の話。…コメディーだけでも恋愛ものでもあると言い張りたい。

（前書き）

夢を詰め込んだら斜め上行って旋回しながら反対方向に行った感じになりました。

でも恋愛ものだと言い張りたいのです↑

ご注意を。

可愛がって、可愛がって、老衰で離れていく飼い犬たち。
その度に悲しんで、落ち込んで、それでも犬それぞれの可愛らしさに慰められて。

大好きだ！お前らあああ！！とか、叫んじゃうよね。
常日頃からの癒しであり、愚痴要員。

たまーに、腹が立つこともあるけれど、可愛い可愛い家の仔^こ。

で。

誰もが一度は考えることだと思う。
意外性もなにもなく、ああ、と。

「家の仔^こが彼氏になってくれれば、って……」

丁度そのタイミングで、今までの男が思い浮かんだら、それは余計に心の底から。

「…誰だって、思うよね」？

誰も返してくれないだろうことを、呟くように聞く。

その問いかけに答えたのは、数分前までこの部屋では聞いた事の無い美声。

「なんだ。実現して嬉しいだろ？」

素っ裸で偉そうに片膝に顎をつけながら笑う、——家の仔^犬だった、人がそこで笑っていた。

そう、『だった』。『だった』んだ。

つまり、過去系。

それはどう言うことか？

「…全く持って、謎…」

「にすんな。主人^{しゅじん}が願ったから、俺も願った。願いは一方通行じゃ叶わない。でも、一方通行じゃなかったら？」

「……………うっそだぁ…」

「叶えてくれたんだよ、カミサマが」

呆然と考える。

素っ裸なのは犬だったせいかな。いや、家の仔がそんな破廉恥なわけが無い。と言うかお前その格好はなんなんだ、ちよつとは隠せよ、おい。

「混乱してるな？ 主人^{しゅじん}、返ってこいよ」

ずれたことを考えていれば、床に片手を着いて素っ裸の彼がこちらに乗り出してきていた。

やめろ、やめてくれ！

その裸体を見せ付けるように近づいてくるんじゃない！

「しゅーじーんー？」

「わ、」

「わ？」

「わたし、」

うん？とひらひらと顔の前で振っていた手を下ろして、小首を傾げる。

ちがう、ちがうんだ…っ！

「わたし、こんなシヨタ趣味じゃない…っっ！」

外見年齢14歳程度の男の子が、27歳OLの家で素っ裸。此处で誰かが入ってきたら、確実お縄になる。断言できる。だが待つてくれ、わたしが望んだのはこんな状況じゃない。こんな特殊な方向を願っていたわけじゃないんだ、誰か信じてー！

「しょ…？ ええと、主人…？」

うん？と小首を傾げる姿は室内犬で人気のチワワだった仔犬の姿と重なる。

「…あ~~~~~！！！！！！」

泣き出したい心境で頭を抱えて、どうしようどうしようと考え。どう頑張っても彼は家の仔こで、でも姿は犬じゃなくて人で、しか

も素っ裸。

「主人、主人、」

「破滅だ…、シヨタコンって思われるんだ…、特殊性癖、うわあ
あああ！濡れ衣だ、違うつつ！」

「主人…」

「ジン、ジン…」

ぐずつ、と泣き出してしまふ。

帰ってきて、ジン。

人間じゃなくていい。

彼氏にならなくてもいい。

家の仔で居て、ねえ。

「……主人は、俺じゃあダメなのか…？」

ぐずぐずと泣きながらジンを呼んでいたら、ぽつりと悲しげな声
がしてはつと顔を上げる。

悲しそうに、寂しそうに此方を伺う彼を見て、あ、とそこで気付
く。

彼は、なんて言った？

『主人しゅじんが願ねがったから、俺も願ねがった。願ねがいは一方通行じゃ叶かなわない』

それは、つまり。

「俺が願ねがったことは、間違まちがっていたのか…？」

くしゃりと笑いたそうに、泣きそうに顔を歪めて、彼は言う。
どうしようもない状況で、それでも彼は、家の仔ジンで。

願ったと。

望んだ、と。

バシンッ

両手で頬を勢いよく叩く。

「…痛い」

「しゅ、主人!？」

ぽろりと涙が零れてぐおお…と悶えたらジンが慌てたが、わたしは気にせず立ち上がる。

「取り敢えずジンが着れる服を探るか!」
「主人?」

心配そうに此方を見るジンに笑う。

「…………ジンも、応えてくれたんだろ？　なら、わたしがすること
は一つだ」

「主人…」

「あおたが青田買いをしたことにする！」

責任取ろうじゃない！

30代目の干物女を舐めたらいかん。

（後書き）

どうしてこうなった、とは言わぬ。
なるべくしてなったのだ！
↑

そして続かない（おい）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2829t/>

ペットとわたし

2011年10月9日02時43分発行